

# みやぎの環境

特集

環境にやさしい暮らしを目指す—環境学習のすすめ

No. 14



1997

3

# 「ほんね」と「たてまえ」

仙台市医師会顧問 堀田 康哉

いつの日か皆様にお尋ねしておきたかった問題、その内容とは首都圏での交通事情あれこれ物語ということになる。

話は遠く昭和初期の省線時代に遡る。「チャールストン」調の「クイックソング」あの名曲「銀座の柳」の歌詞の中に「ラッシュアワーに拾ったバラをせめてあの娘の思い出に…」という文言がある。見方によっては極めてロマンティックな時代だったのである。

さて、国電時代、現在のラッシュアワーは誠に深刻である。朝夕の通勤者とこれに一般乗客も加わり、自動ドアが閉まる直前、JR駅員の大きな掛け声よろしく後ろから両手で一気に乗客を車内に押し込むのである。車内では人力の外に車ぐるみの機械的、物理的力が加わり互いの密着度を高めることになるのである。しかも車内は乗降混雑時の人間集団相互の押し合いへし合いによる圧力、停発車時の慣性作用による衝撃、加えて走行中の車体ぐるみの振動、動揺等、乗客相互の前戯的密着度は加わる許りなのである。加えて最初から痴漢、ストーカー並びにそのサブクラスが多数紛れ込む超満員電車であるということも、この際とくと認識しておくべきであろう。超密着の車内にたまたま夏場の薄着に加えて、年配の人の表現で真っ裸と言わ

れても仕方がないような超露出過度の若い女性が隣合わせると、期せずして一触即発の生理現象に追い込まれても仕方がないのである。今更走行中の車内で下手に大声で痴漢などと喚いて、野暮な騒ぎを引き起こすよりは、次の駅までのもう少しの我慢ということになりかねないのである。「喚く」か「我慢する」かの軍配は自ずから余りにも明白なのである。「動植物を問わず、子孫を残すための行為即ち、Sex」や「受粉」は、地上地下空中を問わず、誰が教えなくても極めて自然な行為として行われているのです。」以上が本能である。Sexの定義なのである。では次に抑制的に作用する何か方便ということになる。

土台、日本伝来の宗教は既に武家政治に飼いつけられ慣らされご用集団と化し、加えて儒教の影響もあつたのか、その内容は誠に一方的であり、偏頗でさえある。その功罪は勿論定かではないが、せめて大乘的な禅僧、狂雲子一休さんの骨片でも煎じて飲んでいたならばと今更悔やまれてならない。

思いつきの「お説教」「ご祈禱」「お祈り」「荒行」「座禅」程度の応急処置ではもはやどうにもならない問題であることをとくと思ひ知るべき時である。

嗚呼



しらねあおい

表紙写真：鳴子町・鬼首

## CONTENTS

### みやぎの環境 第14号

「ほんね」と「たてまえ」 堀田康哉…2

特集「環境にやさしい暮らしを目指す—  
「環境学習のすすめ」……………3

（せい）  
母なる自然・霧氷の船形連峰 柴崎 徹…8

エコライフ  
容器包装廃棄物のリサイクルをしましょう  
読者の声……………10

INFORMATION  
NEWS・環境伝言板

紹介・環境情報センターから……………12

見る・聴く・ふれる  
東北大学理学部附属植物園……………14

まちなみ  
村田町 近江 隆……………15

## 環境学習のすすめ

— 環境にやさしい暮らしを目指す —



春の奥新川（仙台市青葉区）

今世紀に入って科学や産業が急速な進歩を遂げ、私たちの暮らしはたいへん豊かになりました。しかし、一方で多くの廃棄物が地球を汚染し始めました。家庭や事業所から排出される大量のごみの他に、大気中には二酸化炭素、硫黄酸化物、窒素酸化物、フロンガス等が増えていきます。これら人々の活動によって排出された物質は地球環境に今までの営みとは違った様々な影響を与えています。

私たちは今、地球環境をこれ以上悪化させないために、自然と人間の関わりについて学習することを通して、一人ひとりが知恵を出し合い、環境にやさしい暮らしを实践していかなければならないのではないでしょうか。

環境にやさしい暮らしを目指す

# 環境学習のすすめ

## ◆環境学習と私たち

最近、地球環境問題への関心の高まりとともに、環境教育とか環境学習という言葉がよく聞かれるようになりました。環境について学習するというのはどうということなのでしょう。これは一口でいえば、私たちの身の周りの環境を悪化させている原因を知り、これをどうしたらこれ以上大きくしないですむか、また、未然に防ぐにはどうしたらよいかについて学び、考えることです。私たちは家庭や地域社会、それととりまく自然環境のなかで生活しています。そのうち自然環境を脅かしている原因の多くは私たちのライフスタイルにあるといわれています。

現在私たちの生活は大量の廃棄物を発生させると同時に、その処理に莫大なお金と労力とエネルギーを使うことによって成り立っています。また、私たちの活動によって排出されたガスは、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの原因となっています。このままこの状況がすすむと、二十一世紀の終わり頃には海面が上昇して、陸地の低いところが海底に沈んだり、砂漠の

面積が増えたりする可能性があります。また、有害な紫外線の増加により地球上の動植物が様々な影響を受けることが予想されます。

これは地球規模の環境の変化ですが、私たちの身近な川や海も私たちの生活によって汚染が進んでいます。今、環境学習により、私たちの生活を見直すことで、人類を含む多くの生物にとってかけがえのない地球環境を守ることができるとは思います。

近ごろ、私たちはともすると便利な生活の中で私たちの生存に欠く事のできない自然について考えることが少なくなってきたように思います。しかし、地球上の生命を守っている自然環境に対する人間としての責任と役割を理解し、環境保全や環境問題解決のための能力を身につける事は人類が今後とも健全な生活を維持して行くために欠くことができません。

このため今、学校では環境教育が行われています。しかし、これは子どもたちだけの問題ではありません。私たち一般社会人もまた、考えなければならぬ問題なのです。地球の環境を脅かしている大量生産、大量消費、大量



こどもエコクラブ活動発表会

## ■環境教育推進に関する事業について

環境基本条例が制定されたのを機に、県では環境教育推進のため様々な事業を実施しています。まず、毎年秋に県内の各圏域毎に「エコみやぎ」を開催しています。ここでは環境に関するトークショーや映画、演劇等の上演のほか、パネルの展示やリサイクルバザーなどを行っています。今までに、石巻、古川、築館、大河原圏域で開催されました。また、6月5日の環境の日には環境シンポジウムや各種イベントを実施しています。環境庁主催のこどもエコクラブ事業では、子どもたちの環境クラブの活動を支援し、子どもたちの環境理解に役立てています。一般の方々の環境への理

解を深めるために、環境情報センターの整備充実を図り、環境に関する図書、パネル、視聴覚教材(ビデオ等)の閲覧、貸出しを行っています。さらに、地域の環境保全活動を支援することを目的として、環境保全活動アドバイザー48人を任命し、環境保全に関する学習会等で指導、助言を行っています。市町村役場を通して申し込むと無料で講義や指導が受けられます。この他、児童、生徒のための環境教育副読本の作成や、環境情報誌の発行、宮城県環境白書を刊行し環境に関する理解に役立てています。

廃棄という現在のライフスタイルを、もう一度問い直してみる必要があるのではないのでしょうか。

### ◆先人の生活に学ぶ

私たちの現在の生活を見直すためには、ひと昔前の私たちの先人たちの暮らしぶりや、海外の人々の環境に対する考え方でも参考になると思います。もちろん、昔の人々の生活は不便で衛生状態も悪く、現在の私たちの生活とは比較はできないかもしれませんが、また、海外の生活

様式がそのまま日本に馴染むとも思われません。しかし、現代の社会に失われた良さや、取り戻したい習慣の多くもこれらの中に含まれているのではないのでしょうか。

今から百数十年以前の江戸時代の生活について考えて見たいと思います。この時代の生活用品は全て天然の素材によって作られていました。衣類の材料となる繊維も紙も全て農作物として畑から得られるものだけでした。木材や竹や鉄を主体に作られた道具や家具は大切に使用され古くなったものは修理され、再利用さ

れていたと言われています。もちろん、食糧の供給も自然により大きな影響を受け、充分ではありませんでしたし、植物から得られる照明用の油は貴重品でした。廃棄されたものは糞便を含めて徹底して回収され、再利用できないものも殆どが自然に土に還るものばかりでしたので、廃棄物問題もありませんでした。従って町にはごみも殆ど見られず、非常に清潔だったと言われています。

しいという生活態度は現代に生きる私たちが十分見習う価値があると思いません。つい、五十年ほど前の日本の社会も競争で多くのものを失いました。食べるものにも事欠く毎日でしたが、この時代にも、ものを大切にするといい習慣ができてあがっていました。確かに生活は今とは比べものにならないくらい質素でしたが、自然と共存しながら心豊かな暮らしがあったように思います。現在の豊かさの中で失ってしまったものをここから学ぶ事ができるのではないのでしょうか。



夏のブナ林（大和町桑沼付近）

## ◆海外に学ぶ

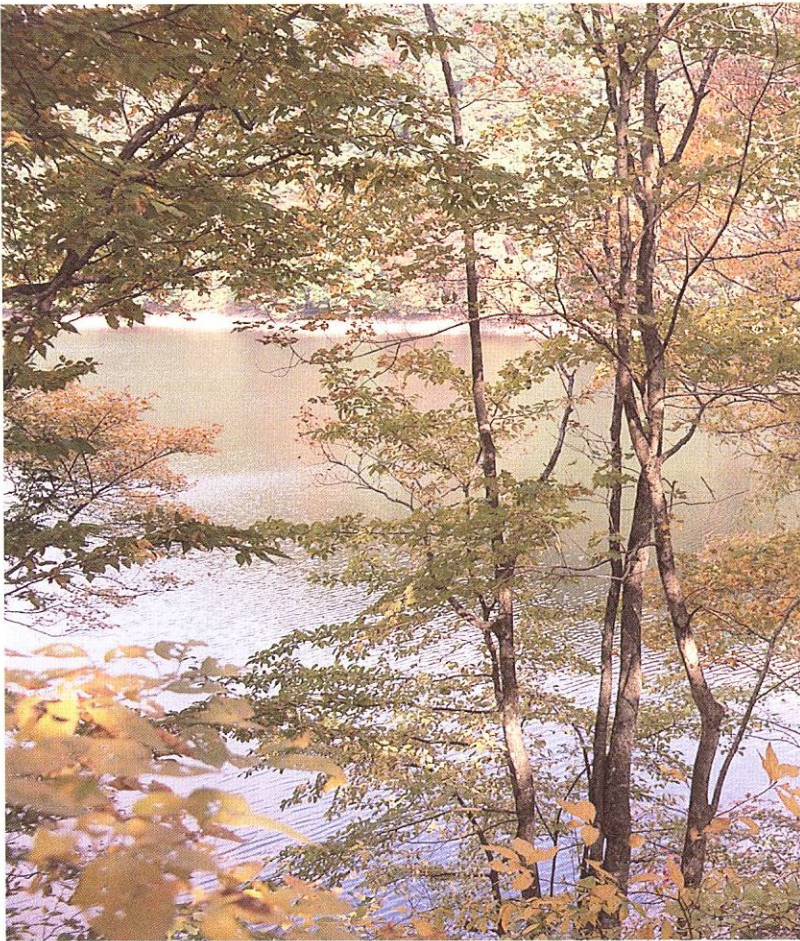
海外においても、それぞれの国の風土、歴史や伝統に従って様々な環境への取り組みが行われています。

アメリカでは開拓により多くの自然が失われたことを教訓に、百年以上も昔に自然保護のボランティア活動が始まっています。現在も市民主導型で多様な方式の環境保全活動が行われています。ボランティア活動とは自主参加活動で、好きな事を楽しみながらやることで、充実感や満足感の得られる自

己実現活動です。キャンプ生活で子どもたちは自然と親しみながらその大切さを知ると同時に環境にやさしい生き方を学びます。例えば、食べ残すことの無駄などはここでの自炊生活を通して自ら考え、自然に知るようになりま

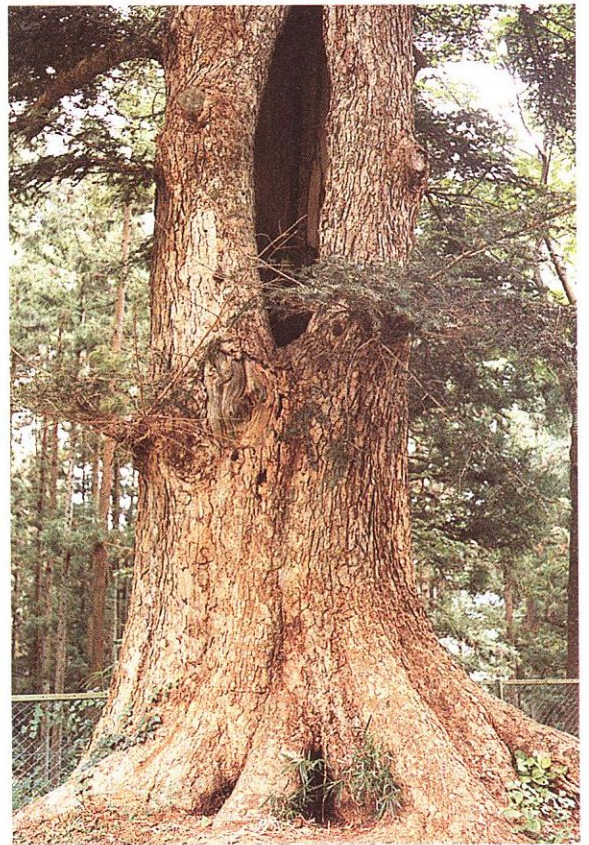
す。このように決して押しつけてなく、野外活動や家庭で実行しながら自然に体得したライフスタイルは一生保ち続けられるでしょう。このことがアメリカにおいて環境教育が人々の生活に深く浸透した理由だといわれています。

ドイツでは十八世紀以来、森や林を



秋の長老湖（七ヶ宿町）

舞台にした物語が多く語り継がれています。この時代は啓蒙活動が盛んで、健全な理性や知的な判断力が尊重される時代でしたが、一方でメルヘンが愛好されていたと言われています。精霊や小人が登場する物語は、自然への深い洞察や人生に対するいとおしみの心が溢れたものでした。森林を舞台に繰り広げられる物語からは、心の故郷をそこに求め、森林を大切にしたいドイツ人の心が伺えます。現在のドイツにもこのような自然に対する敬愛の心は受け継がれ、環境問題に関して世界にさがかけて様々な先進的な取り組みが行われています。環境政策の一例として森や公園や湖が都市の近郊の誰にでも利用しやすいところに配置され、老人や子供たちが自由に森林浴を楽しんでいます。



八幡神社のモミの木（岩出山町）樹齢900年

## ◆自然に感動する心を育てる

自然の大切さを理解し、自然と共存するために地球にやさしい生活を心がけると言っても、そのきっかけをつかむことはなかなか難しいかもしれません。それにはまず、自然を体験する事から始めたいかがでしょうか。大自然のなかで森林と人について想い、大自然の詩を歌うことから始めるなら、誰にでも自然の素晴らしさは実感できるはずで、それを汚す事の愚かしさに気づくはずで、幸い、日本には四季があり、四季折々の美しい自然がいっぱいあります。素晴らしい自然の中でハイキングやスキー、キャンプをし、友と寝食を共にし、語る時を持てるなら、これは素晴らしい環境教育の場ではないでしょうか。また、

子どもは自然の中での遊びを通して様々な機能を発展させます。冒険によって、何でもやってみようという意欲が持てるようになり、さらに、成功体験によって自信が得られるならば創造性や社会性という人間形成のうえで大切なものを修得することにもつながります。

「沈黙の春」の著者レイチェル・カーソンは自然の持つ神秘さや不思議さを目をみはる感性を「センス・オブ・ワンダー」と呼んでいます。「この感性はやが

て大人になると私たちが自然から遠ざかり、倦怠の中でつまらない人工的なものなどに夢中になることに對する、変わらぬ解毒剤になる」と述べています。私たちが子ども時代に持っていたセンス・オブ・ワンダーの心を取り戻し、精神的にゆとりある生活を取り戻すことは、環境問題を含めた現代社会のかかえている多くの難問を解決する糸口にもなるのではないのでしょうか。



## いづもエコクラブ地域交流会 & 活動発表会 in みやぎ

昨年十一月十三日から十五日までの三日間、宮城県内で開催された全国環境教育フェアの一環として、「いづもエコクラブ地域交流会 & 活動発表会 in みやぎ」が開催されました。

「いづもエコクラブ」とは、昨年六月から、環境庁が進めている環境教育事業のひとつで、次世代を担う子どもたちが地域の中で仲間とともに、自らの問題意識のもとに主体的に環境に関する学習や活動を展開するものです。具体的には、小中学生数人以上と大人の世話役でクラブをつくり、事務局に登録し、活動を進めていきます。クラブには、事務局から専用のファイルやキットが送られ、定期的なニュースレターの発行やさまざまなイベントへの案内などがあります。各クラブが取り組む内容はまったく自由で、ごみ問題やリサイクル、自然観察、水質調査など、それぞれ子どもたちが自分たちでやりたいと考えた項目に取り組んでいます。

今回の地域交流会 & 活動発表会は、各クラブで行っている活動の様子を広く、環境教育に携わる人たちに紹介するとともに、日頃クラブ内だけで活動している子どもたちに、他クラブ、特に今回は県外のクラブとの交流の機会を設けることを目的として開催されました。

当日は、福島、山形、宮城のいづもエコクラブ四団体が参加し、午前中に交流会、午後活動発表会が行われました。午前中のプログラムでは、仙台市内の広瀬川浄化センター、葛岡清掃工場とリサイクルプラザを見学、その合間にアクションシートを使って、自己紹介や情報交換をしたりと盛り沢山の内容でした。特にリサイクルプラザのリサイクル品を使った遊びコーナーでは、子どもたちは時間を忘れて空き缶ローラーやパソコンに興じていました。午後の活動発表会は、環境庁の説明、活動紹介ビデオ上映、各クラブのプレゼンテーション、大人のサポーター・コーディネート

ネーターの報告の順に進められました。各クラブのプレゼンテーションでは、おどけた会話劇で会場から笑いを誘ったり、大人も感心するような実験風景を再現したり、子どもたちの日頃の取り組みを様々な道具仕立てで見せてくれたりと、各クラブそれぞれの個性を発揮し、熱演に拍手を浴びていました。会場からのアンケートでは、発表会の内容について、おもしろかった、参考になったという感想が多数で、参加した全国の小中学校の先生方や環境教育関係者から高い評価を得たようです。子どもたちからは、新しい友達ができ、たくさんのクラブの活動がわかってよかったなどの声寄せられました。



エコみやぎ'96仙南ワークショップ

### 参考にした図書

1. 大江戸リサイクル事情 石川英輔 講談社
2. 社会と環境教育 岡島成行 東海大学出版会
3. 森林の健康学 岩崎雅雄 太平社
4. 豊かさとは何か 暉峻淑子 岩波新書
5. アメリカの環境保護運動 岡島成行 岩波新書
6. 環境教育 VOL.1 NO.1 日本環境教育学会
7. 子どもと環境教育 阿部 治 東海大学出版会

母なる自然

# 霧氷の船形連峰



冬の到来を告げる主峰の船形山（1500.2m）後白髪山より



白いサンゴを見ているような、低木林の霧氷



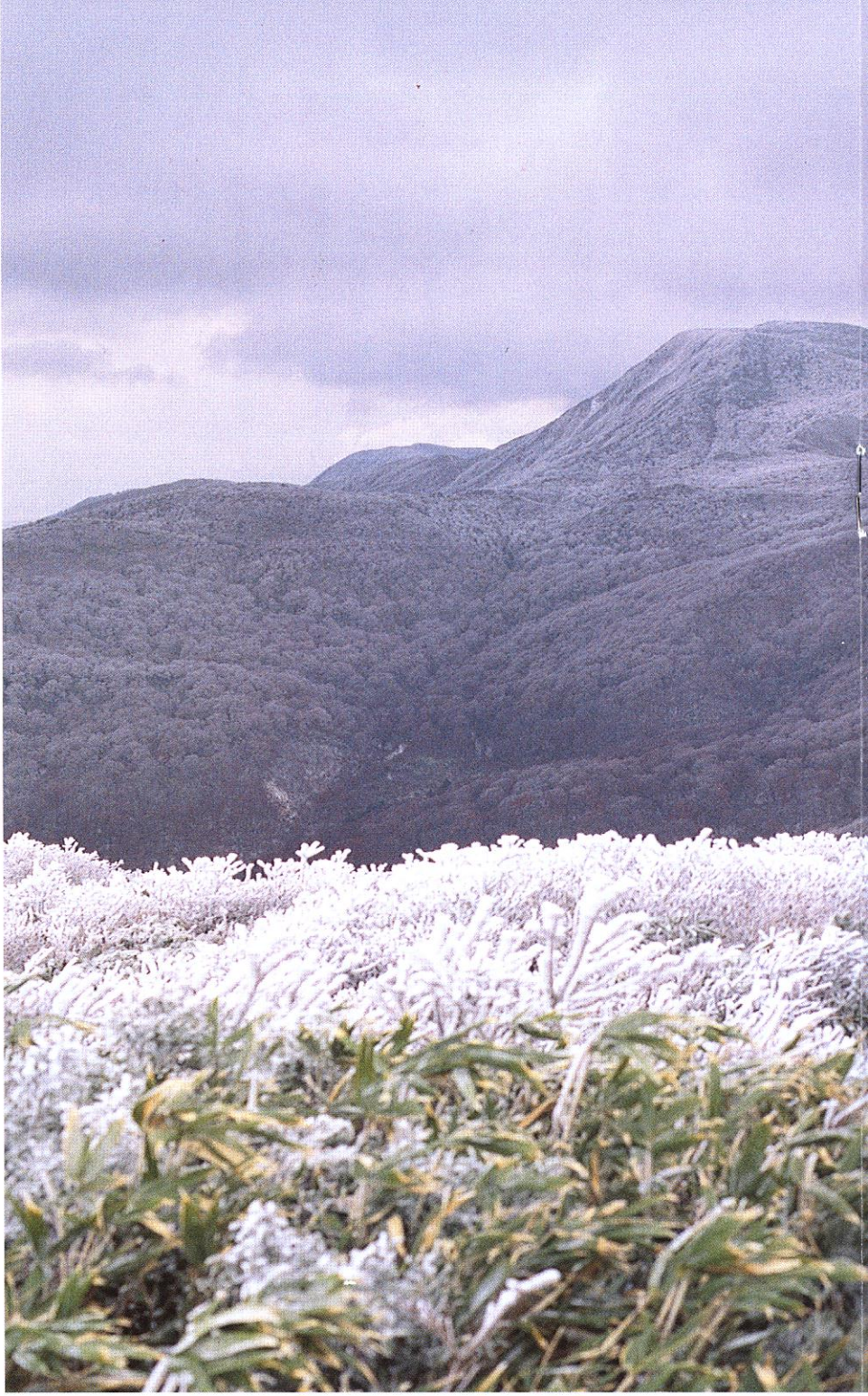
三峰山（1417.6m）仙台から見ると、まん中の奥に位置する峰だ



(財)宮城県伊豆沼・内沼  
環境保全財団研究室長

柴崎 徹 (文と写真)





「世界の屋根」がヒマラヤなら、船形連峰は「仙台の屋根」だ。南北に連なるだけでなく東西方向にも立派な尾根を派生して、とにかく全体の山築が広い。この山々の重畳が日本海側の気候の侵入を拒んで、強い冬の気候下でも、降雪がおいそれと仙台まで及ばない寡雪環境をつくりだしている。

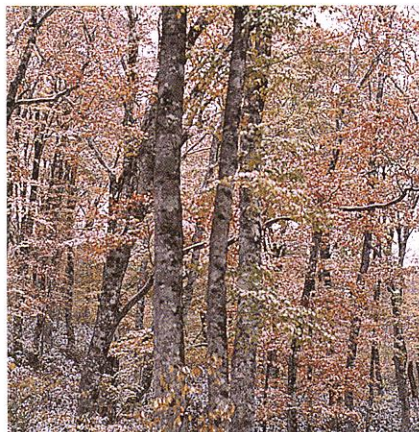
しかも山々が抱え込んだ多量の雪は、仙台に豊かな水と美しい流れをもたらしている。「仙台の母なる自然」それが船

形連峰でもあるのだ。

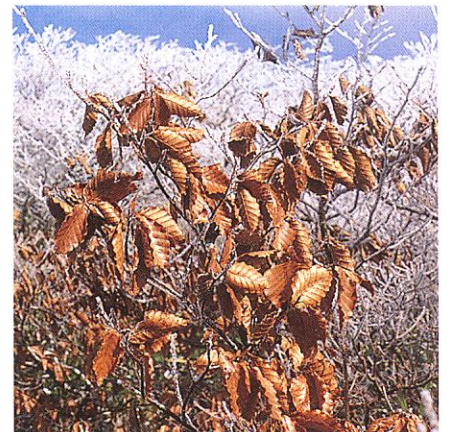
十月末、定義より後白髪山（一四二二・五メートル）に登った日は、ちょうど山に初冠雪のあった日であった。山腹のブナ林でさえ、薄っすらと雪をかぶってくすんでいた。一三〇〇メートル以上の亜高山帯に広がる低木林は、一面に霧氷をつけて、例年より早いシガ（氷）の花を咲かした。この時ばかりは、ハクサンシャクナゲも、アカミノイヌツゲも、ミネカエデも、ドウダンツツジも皆んな

同じシガの花で白くなった。白髪山の白い花である。気温は零下五度を示している。

西の黒伏山や白森、仙台カゴも雪に覆われていた。北の船形山もすっかり冬仕度に入っている。北隣に聳える三峰山は、私たちの立つ後白髪山と同じシガの世界。一番東の北泉・泉ヶ岳だけが紅葉の時期をまだとどめている。そして仙台はこれから秋たけなわの季節を迎える。



山腹の薄っすらと雪化粧したブナ林



ブナの低木には、まだ黄葉がしがみ付いていた

● 交通案内 ●

◎ 升沢コース

JR仙台駅前から宮城交通バス、吉岡行きで終点下車。タクシーに乗り継ぎ、約五〇分で旗坂キャンプ場へ。平日は沢渡までバスがある。  
車では国道四号線を古川方面へ。大和町で左折、県道に入り升沢へ。

# 容器包装廃棄物の リサイクルを促進しましょう

## ① 容器包装リサイクル法制定の背景

「容器包装」と言われても、ビンとこないかと思いますが、びん、缶、トレイ、ラップなど商品の容器や包装であつて、その商品が消費されたり分離された場合には不要となるものを指しており、今ではどんな商品も何らかの形で容器や包装が使われているのが当たり前になっていると思います。

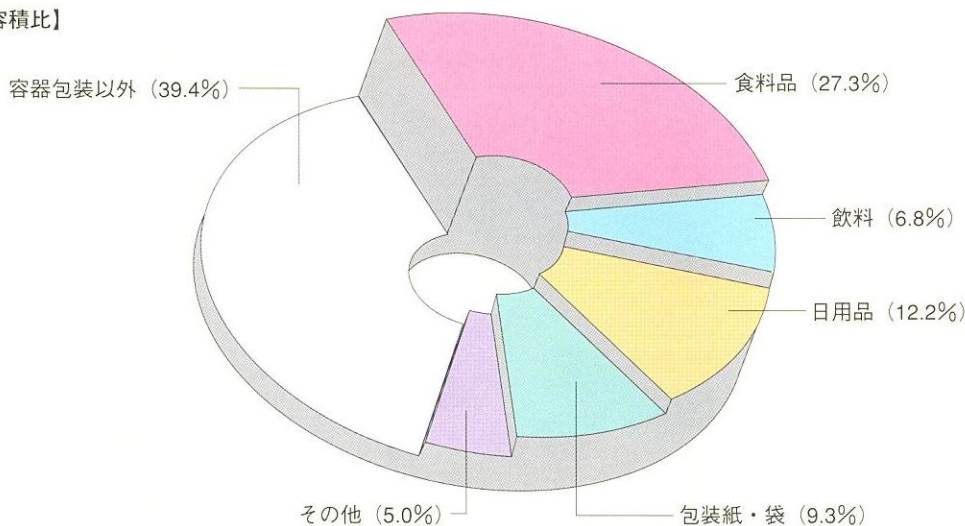
どのご家庭でもごみ箱の中は容器包装廃棄物ですぐ一杯になってしまうと思いますが、実際、家庭ごみを中心とした一般廃棄物に占める容器包装廃棄物の割合は容積比で約六〇%、重量比でも約二五%を占めております。(図一)

また、容器包装廃棄物はアルミニウムやスチール、ガラス、プラスチック、紙など技術的にリサイクル可能な素材で作られている場合が多く、これらの多くはリサイクルされた再生原料から生産した方がエネルギーの節約になるとともに、各種汚染物も減少することが知られております。(図二)(図三)

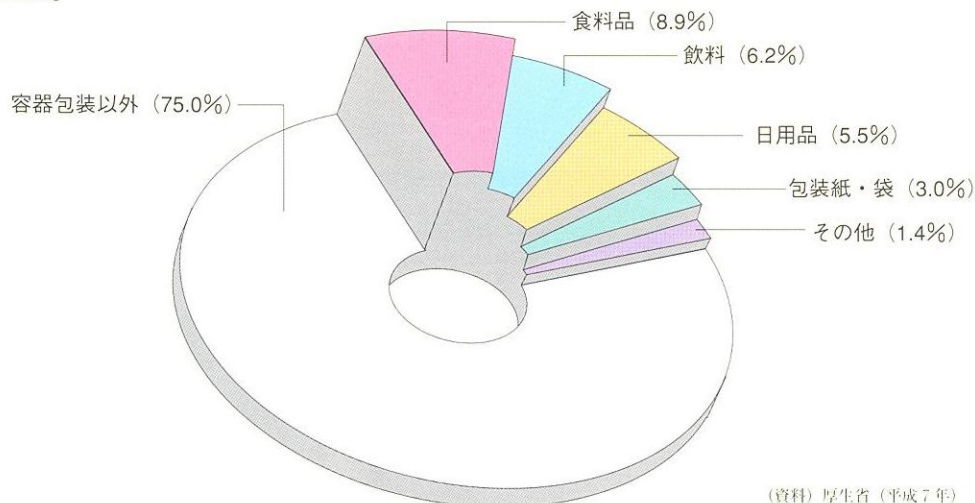
このため、ごみの減量化とリサイクルを促進するための新たな社会経済システムを構築する上で、その対策がクローズアップされてきたのが容器包装廃棄物で、リサイクルによりその量を大幅に削減することが、ごみ全体の減量化と環境保全に大きく寄与します。そこで、容器包装廃棄物を対象に、リサイクルの体制整備や役割分担などの様々な面から十分な検討を行ったうえで、容器包装リサイクル法が制定されたのです。

図1 一般廃棄物に占める容器包装の用途別割合

【容積比】



【重量比】



(資料) 厚生省(平成7年)

ごみの減量化及び資源の有効利用を目的として平成七年六月に容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(以下「容器包装リサイクル法」という)が成立し、平成九年四月からの本格施行に向けてその準備が進められておりますので、その状況についてお知らせします。

② 制度の概要

一般廃棄物の処理は基本的に市町村にその責任がありますが、この法律では、容器包装廃棄物の処理責任を市町村のみに負わせるのではなく消費者が分別排出、市町村が分別収集、事業者が再商品化という役割分担をしてリサイクルを図ることが基本となっております。

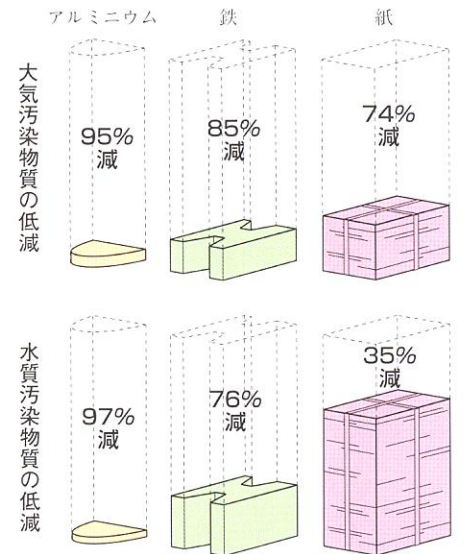
具体的には、市町村が法律に基づき策定する「分別収集計画」にしたがって容器包装廃棄物を分別収集し、一定の基準（異物を取り除いて一定量貯める）を満たした状態で厚生省が指定した施設に保管すれば、再商品化（リサイクル）の義務を負う事業者の負担により相当分が引き取られリサイクルが行われるというものです。

③ リサイクルの対象となる容器包装

平成九年度からリサイクルの対象となる容器包装は、①無色のガラスびん、②茶色のガラスびん、③その他のガラスびん、④ペットボトル、⑤スチール缶、⑥アルミ缶、⑦紙パックとなり、この七品目の中から地域の収集体制や保管施設の整備状況等を勘案してどの品目をいつから分別収集するかを決定し市町村の分別収集計画に明記することとなります。

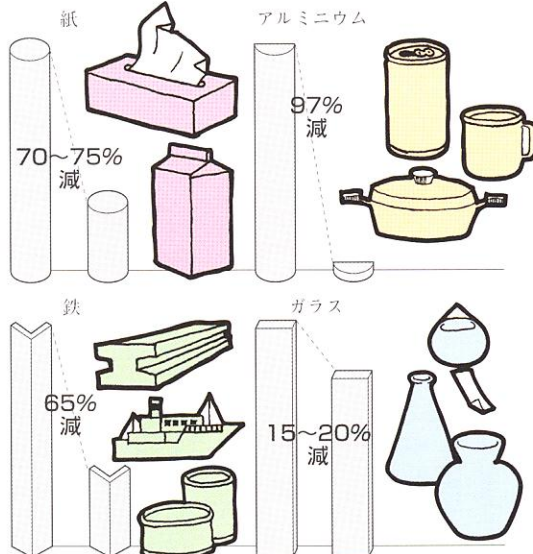
なお、当面、事業者が再商品化義務を課す容器包装廃棄物は無色のガラスびん、茶色のガラスびん、その他のガラスびん、ペットボトルの四品目となり、スチール缶、アルミ缶、紙パックの三品目は、市町村が一定量分別収集すれば市場において有償でリサイクルしているため、事業者が再商品化義務は課しておりません。また、紙パック以外の紙製容器包装やペットボトル以外のプラスチック製容器包装については、技術的な問題等により事業者の再商品化義務を平成十一年度末まで猶予しており、平成十二年四月から分別収集の対象となります。

図3 再生原料から作った場合の工場から出される各種汚染物質の減少



地球白書1987年版

図2 再生原料から作った場合のエネルギーの節約



各種団体調べ



次回は今回に引き続いて、容器包装リサイクル法の市町村、事業者、住民の取り組み状況についてお知らせします。

読者の声

「みやぎの環境」十三号の巻頭随筆「俺は捨てない人」に同感です。最近、ポイ捨て禁止条例を制定する地方自治体が増えてきました。公衆道徳上情けない限りです。地球を綺麗にする前に汚さないことです。捨てなければ拾う必要ありません。捨つ心より捨てない心を持つことが何より大切です。自分で出した物は極力自分で始末する教育が大切です。これを機会に私は「こみの日」を制定することを希望します。  
(大和町・無職)

「チヨ一簡単、月別環境家計簿」のコーナーはたいへん頭を痛めさせられました。少し前までは硫酸化合物の多いディーゼル車で通勤し、タバコを吸っては二酸化炭素やその他の有害物をまき散らしていました。なかなか実行できそうにありません。  
(仙台市・会社員)

小生は、「親子昆虫教室」を開催しています。年に数回例会を開き、親子八十名余りの人たちと虫を追っています。昨年の夏には蔵王に一泊して採集会をやりました。夏に公民館で夏の昆虫展を開いています。それにも協力しております。  
(大和町・教員)

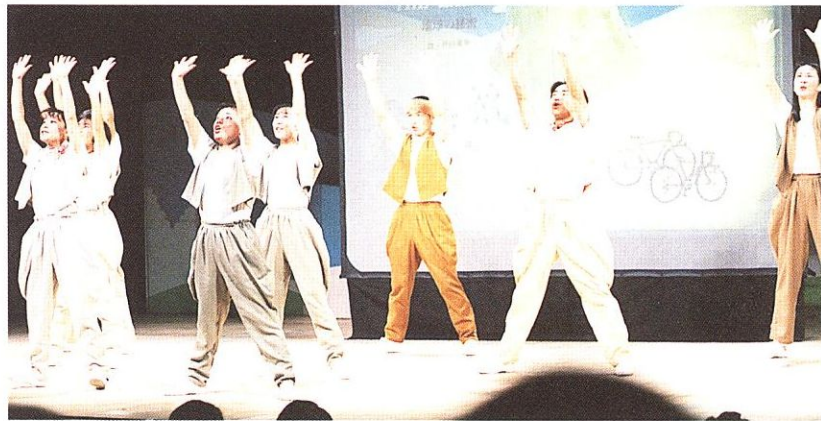
「森を考える」の記事を読んで森林は人間のやすらぎの場であるだけでなく、あらゆる生物のやすらぎの場となっていること、森林を大切に扱わなければならないと身にしみて思いました。環境にやさしい実践例として、先日、牛乳パックをリサイクルして「口寝枕」を作りました。リットル入りの空箱十ヶを使用してブロックを作り、古着でカバーを作り便利に使用しています。  
(白石市・消費生活相談員)

昔、大藩の城下町、今、東北地方一の人口百万の政令指定都市でありながら行ってみたいと思う庭園一つ無い仙台市とは時々思います。秋田、山形、福島にはそれぞれ行くと思える庭園がありますが、仙台は西公園でしょうか。そこは砂利道で北西に小さな藤棚があるだけで、花壇もありません。何とか一つくらい庭園が欲しいものです。  
(仙台市・団体職員)

仙台市にも「県民の森」「台の原森林公園」など自然を生かした公園があります。一度訪れてみてはいかがでしょうか。  
(編集部)

NEWS

「エコみやぎ96仙南」が  
開催されました



十一月二日から六日まで、エコみやぎ96仙南が開催されました。このイベントは、地球環境問題について県民一人ひとりの理解を深めてもらうため、県が毎年実施しているもので、県民が直接参加できる催しです。親子自然観察ワークショップ（ことりはうす）、環境出前講座（角田市立藤尾小学校）、阿武隈急行エコトレイン（環境ポスター展）など、多彩な内容の催しが仙南各地で行われました。

た。また、今年のメインイベントは、平成八年十月末にオープンしたばかりの仙南芸術文化センター「えずこホール」を会場に、浅野知事とイルカ（歌手）の環境トークショー、アースミュージカル「地球の秘密」坪田愛華物語のプログラムが進められました。このミュージカルは、地球環境保全について社会に強く訴えたマンガ「地球の秘密」を著し、わずか十二歳で急逝した坪田愛華ちゃんの生涯をつづつたもので、かけがえのない地球環境の大切さと、短い生涯を懸命に生きた愛華ちゃんの姿に、訪れた観客、特に近隣の小学校から来場した子どもたちは深い感銘を受けたようです。

NEWS

こどもエコクラブサポーターズ  
研修会「エコみやぎ」が開催されました

十月二十二日～二十三日の一泊二日、こどもエコクラブサポーターズ研修会「エコみやぎ」が宮城県鳴子町他で開催されました。本事業は、十一月十四日開催のこどもエコクラブ地域交流会&活動発表会とともに、環境庁、宮城県、財団法人日本環境協会主催、イオングループ％クラブ他の共催事業として実施されたもので、県内のサポーター、コーディネーターをはじめ、茨城県、福島県など県外からの参加者も得て、宮城県内で初めて実施されました。

一日目は、講師の説明やグループディスカッション、交流パーティーなどが行われ、講

NEWS

環境基本計画案県民ヒアリング  
が行われました

師の川島氏の巧みなアプローチにより、最初は緊張ぎみの参加者もすっかりうちとけ、和やかな雰囲気の中に活発な議論がなされました。二日は森林科学館や県内最大のブナ林の観察、サンクチュアリセンター見学など、フィールドワークが行われ、ちよっと駆け足で秋の宮城の自然を満喫しました。

県では、平成九年三月の策定に向けて、環境基本計画の内容の検討を進めています。平成七年七月に環境審議会に諮問、環境計画専門委員に調査検討を依頼し、策定作業を進めてきました。昨年十二月に仙台、白石、吉川の三会場で、計十六名から計画案に対する県民の意見を聴くためのヒアリングを行いました。十二月十七日に開催された仙台会場では、高等学校講師、環境保全活動家、公社役員、関係団体職員など、環境保全活動や教育に携わる方や環境に関心の高い方々が意見を発表を行いました。意見を一部紹介すると、自然環境保全のための森林保全の重要性、緑化の推進、環境教育の重要性、NGOのネットワーク体制の整備、環境保全パートナーシップ県民会議の果たす役割、環境に関する情報提供の必要性と体制の整備等、幅広い分野から様々な意見が出され、意見発表者と環境審議会専門委員の先生方、会場との活発な意見交換がなされました。

伝言版

廃棄物処理展(WADEX'97)  
のお知らせ

(株)日報主催(財団法人日本環境衛生センター他協力協賛)の第六回廃棄物処理展が平成九年五月二十日から二十三日までの四日間東京有明の東京ビッグサイトで開催されます。今回は「環境保全と再資源化」というテーマで廃棄物処理に関する幅広い分野の技術・製品等の展示が行われます。特に今年四月から容器包装リサイクル法が施行されることあつて、情報の交換の場としても意義のある展示会になるものと思われれます。各社とも資源循環型の社会を意識して、環境保全効果の高い廃棄物処理技術やリサイクル技術の開発に力を入れており、リサイクル型社会を目指す新たな経済活動への転換に向けて、昨年の三百五十社を上回る出展が予想されます。

会期 平成九年五月二十日(火)

〃二十三日(金)

時間 午前一〇時～午後五時

(最終日は午後四時まで)

会場 東京ビッグサイト

東京都江東区有明三-1-2-1

内容 一般廃棄物及び産業廃棄物の処理・リサイクル技術システムの

展示、啓蒙コーナー 他

入場料 一〇〇〇円

お問い合わせ先 (株)日報

〇三三三二六二三四六一

きれいな町を

みんなの手で

「クリーンせみね」の会

瀬峰町には伝統的芸術や文化、特徴のある建造物も比較的少なく、ひとを魅きつける観光地も少ない。どうしたら、自分たちの地域をよみがえらせることができるのか、誇りと愛着もてる町にするにはどうしたらよいか。このようなことを、地元有志の方々が話し合い始めたことがきっかけで、嘆いていても仕方がない、身近なことで、どこにも負けないような町をつくりたい。という思いから、自分たちの手で「美しい町・きれいな町・住みよい町を実現しよう」と決意して、平成五年五月「クリーンせみね（代表千葉恒



夫さん）の会がお年寄りを中心に会員二十名で発足しました。現在は小学一年生から八十五歳までの六十名が会員となっております。

「誰にも頼らずボランティア精神に徹しよう」を合言葉に第二・第四日曜日の午前六時から七時三十分まで、通勤・通学路（県道・町道）のごみ、空き缶、空きびん、吸い殻等を拾い始めました。会員が増えるにつけて、効率よく活動できるよう三つの作戦①悪い場所を集中的に全員で実施するクリーンA作戦②負担を決めて班ごとに実施するクリーンB作戦③所属する班の付近を実施するクリーンC作戦、を決めて実施しております。活動は大変好評で大きな広がりみせ、地元企業からもスタンプド灰皿や麻袋等の寄贈がありました。

このほかの活動として道路脇に屑かごや吸い殻入れを設置して定期回収を行ったり、駅のトイレ掃除なども実施しております。

さらに、文化のかおりがただよう町になることを願って瀬峰駅にミニ図書館「駅文庫」を開設しました。本は全て寄贈によるもので現在八六〇冊ほどあり、備え付けのかりだし帳に名前と書名を記入すれば誰でも借りることができ、利用者の良心を信じて返却期間も設定していないそうです。

今後、この活動に賛同してくれる方を一人でも多く会員に迎え、より良い地域をつくっていききたいと千葉会長さんはじめ役員の方々が熱っぽく語ってくれました。

▼連絡・お問い合わせ先

〒九八九一四五 栗原郡瀬峰町大里字中長根

四〇

事務局 藤田昭利

☎〇二二八三三八一・五七六

本年度は県内の各地域や教育の現場で、地域環境や地球環境を考えた暮らしの在り方を問うイベントや研究会が催され、環境問題について多くの人に理解を深めていただきました。

わたしたちに今求められていることは、大量消費型の生活からリサイクル型の生活で、物を大切にすることを誓うことです。そのため一人ひとりが二十一世紀の豊かな暮らしの実現に向けて、身近なことから環境にやさしい行動を続けていくことが急務となっております。当センターには、実践に役立つ子ども向けの図書や環境に関する行政資料等が整っており、自主学习や地域の活動・研究等に利用されております。今年は一九九五・九六年に発行された新しい図書を中心に百三十冊を揃え、活用されてきました。また、環境問題を分かりやすく解説している展示パネルの貸し出しが、延べ枚数で千枚を超える活用があり、環境問題に対する県民の関心の高さが伺われました。

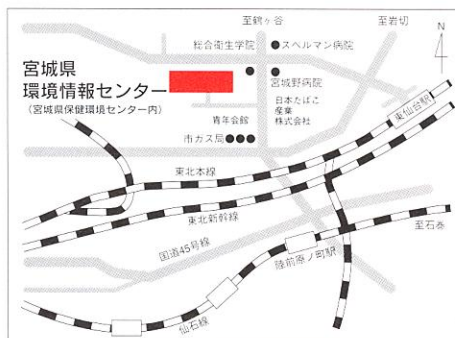
■新刊図書紹介

「ドラえもん のび太の地球を救え！」

この本は、国の「環境基本計画」が作られた背景や理由、そして、めざしている内容を、子ども向けにまんがで解説しています。いま、地球と人類が直面している環境問題は、ドラえもんのひみつ道具「創世セット」のような科学技術だけにたよって、解決できるものではなく、子どもたちの地球を愛する心が地球を救う」と結んだ大変分かりやすい内容になっています。

大きさはB6版八八ページのポケットサイズです。

〒983  
 仙台市宮城野区幸町4-7-2  
 宮城県保健環境センター内  
 宮城県環境情報センター  
 TEL 022(257)7181 内線29  
 利用時間/月～金曜日、午前9時  
 から午後4時まで  
 休館日/土・日曜日、祝日、年末  
 年始(12月29日～1月3日)  
 交通/仙台市営バス 保健環境センター・たばこ工場前下車すぐ  
 宮城県総合衛生学院隣り



# 東北大学理学部附属植物園

四季折々の自然の営みが見える

モミの自然林

仙台市の中央部、広瀬川の西に広がる青葉山丘陵の東端に位置し、面積は四九万ヘクタールで、最高海拔高度は約一五〇メートル、地形的に変化に富んでいます。

この地は慶長五年（一六〇〇年）に伊達政宗が仙台城を築いて以来、御裏林として城の防備のため人の出入りを禁止し、今日まで森林の保護が続いています。そのため仙台地方の丘陵地の自然植生であるモミの美林が残されており、一〇〇万都市の中央部としては稀に見る地域となっています。

自然植生のモミ林が発達するためにマツラン、カヤランなどの着生植物やヒメノヤガラ、ホクリクムヨウランなどの腐生植物など微妙な環境条件の下に生育する植物も多く、また、アカガシ、シロダモ、カラスザンショウ、モチノキ、ヤブムラサキなど暖地性植物、全国的に珍しいユウシュンラン、ナガハシスミレなどが生育し、動物としては猛禽類のチョウゲンボウ、オオタカや肉食動物であるキツネ、テンなども生息し、森林生態系が良く保存されているため、昭和四七年（一九七二年）

に国の天然記念物に指定されました。わが国では植物園が天然記念物に指定されたのは初めてです。

植物園は仙台城の一部であったことなどから、蒙古の碑、青葉山の碑、残月亭跡、最上古街道跡など多くの旧蹟が残されています。

展示ホールには天然記念物「青葉山」の森林の構造や種の多様性、絶滅危惧植物と園内の貴重な植物、木の肌と内部構造、仙台市内で見られる動物たち、種子の世界、昆虫と植物、植物園の立体模型が展示されています。



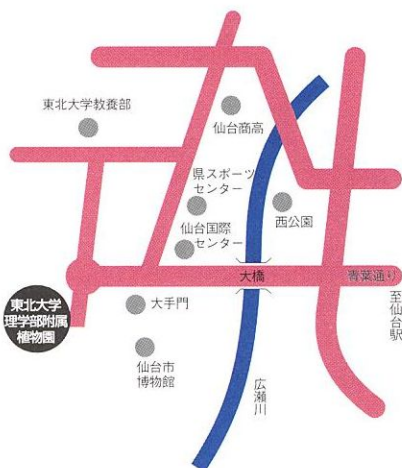
## ガイド

### ■ JR 仙台駅からバスを利用される方

- 駅前バスプール内の市営バス青葉城址循環、青葉台行などに乗車、扇坂で下車、徒歩10分。

### ■ 車を利用される方

- 東北自動車道仙台宮城ICから西道路、大橋経由で天守台方向へ進んで下さい。駐車場は小型車約30台、大型バス3台。



## 入園料

個人	大人	220円
	小人(小・中学生)	110円
団体(30名以上)	大人(一人につき)	170円
	小人(一人につき)	90円

(消費税が含まれています)

## 開園期間・時間

期間：4月1日 — 11月30日  
 時間：午前9時 — 午後5時  
 (午後4時までにお入り下さい)

休園日：毎週月曜日  
 (月曜日が休日のときは翌日が休園です)

《問い合わせ先/☎022-217-6760 FAX 022-217-6766》

空洞化する蔵のまちなみ―村田町

# 「くらしさ」の喪失

東北大学工学研究科教授 近江 隆

全国に小京都と言われる都市や町がたくさんある。宝暦年間から始まり安永年間に最盛期を迎えた紅花の交易地として栄えた村田もその一つである。地方のまちがその地域個性を表現するのに大都市や文化の中心地域の名前を冠する例が多い。「銀座」はその代表である。小京都はそれに次ぐ呼称かもしれない。武家屋敷や商人町の竹まいの残る地域がよくそう呼ばれる。

藩政期から明治にかけての往時の隆盛が所々に残る店蔵が現在のまちなみに趣を添える。どつしりとした漆喰塗りのなまこ壁や瓦屋根と彫の深い構えは、櫛の歯の抜けたような現在のまちの姿とは対照的である。フアサードの変化に取り残された町屋の奥まで続く路地は、小さな門構えや庭木によってそこに蓄積された過去の時間と空間の堆積を感じさせてくれる。しかし、ここには往時の賑わいも住むことの賑わいも無い。空洞化していくまちがここには在る。まちから離れた新しい工場や文化施設やそのデザインのもたらすイメージとは裏腹に、益々、中心部の集積の解体と「くらしさ」の喪失が強調される。そこには豊か過ぎた過去の遺産に対して、それを活用できずに「模様眺めのまち」として時を消費し続けるまちの苦悩が在る。



過去の隆盛を今に伝える蔵のまちなみ

## 交通

- 仙台から
  - ・車で高速利用、村田インターまで20分
  - ・一般道、県道31号線利用40分。
  - ・宮城交通バス、高速経由で30分、村田荒町下車。
- JR大河原駅から
  - ・バスで20分。



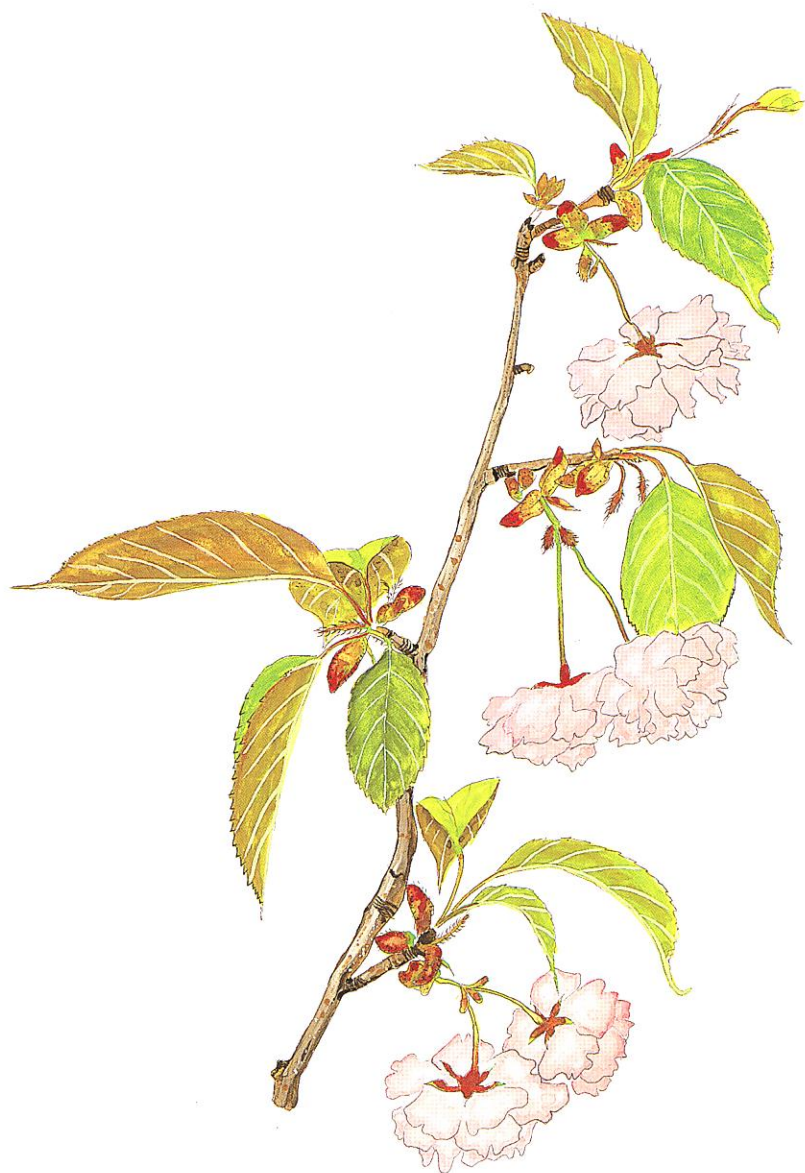
時間の堆積を残す路地



空地によって露出した町屋の側壁



まちなみに入り込んだ近代建築



ヤエザクラ  
岩出山高校 川野真人先生画